

平成 19 年 12 月 25 日  
高 齢 社 会 対 策 課

## 高齢者保健福祉懇談会における検討課題（テーマ）案

### 1 高齢者の社会参加支援

約 8 割といわれる元気な高齢者が地域社会に参加することは、本人にとっていきがづくりや健康維持につながるとともに、その活動が地域を支える担い手となることが期待されます。今後団塊の世代が地域に帰ってくることも視野に入れ、高齢者が活躍できる地域づくりや仕組みづくりが必要です。

### 2 ひとりぐらし高齢者への支援

平成 16 年度に実施した高齢者基礎調査によれば、高齢者のうち約 16%がひとりぐらしであり、高齢人口から換算すると約 2 万人と推計されます。こうしたひとりぐらしの方が閉じこもりにならないように、また、何かあった時にできるだけ早く対応できるような仕組みづくりが必要です。

### 3 高齢者の権利擁護

練馬区では、今年度「練馬区高齢者虐待対応に関する実施要綱」を定めました。虐待問題は、介護者が介護により心身ともに疲労し、追い詰められていることが少なくありません。こうした介護者への支援などにより高齢者の虐待を防ぐとともに、認知症など判断能力が十分でない方の権利擁護を確保する体制づくりが必要です。

### 4 在宅医療・看護・介護の支援

看護や介護が必要となった場合でも自宅で住み続けたいという方は依然多い傾向にあります。また、療養病床の廃止などにより、在宅での生活を余儀なくされる場合も想定されます。在宅での医療・看護・介護を支援するため、円滑な関係機関の連携を確保する必要があります。

### 5 高齢者施設のあり方

高齢者センターや敬老館は、これまでの個人での入浴や娯楽といった利用のほか、最近では介護予防や健康維持などの地域活動の場としての利用も多くなってきています。地域での限られた空間を効率的・効果的に活用していくために、高齢者施設の役割を再検討する必要があります。